

特集 むっちゃんを見る

美しく生まれ変わった
追手門と南内門

弘前城跡に残る建物は、これまで長い間、幾度もの修理を経て維持されてきました。前回の大規模な修理から約60年が経過し、傷みが見られるようになったため、市では現在、修理・耐震補強工事を進めています。

弘前城の変遷や、今年度修理を終えた追手門・南内門について、連載『むっちゃんの教えて文化財!』でおなじみのむっちゃんが解説します。



案内人・むっちゃん
文化財行政に携わって12年! 学芸員資格を持つスペシャリスト(?)職員。祝・特集出演★これからも連載ががんばります!

■問い合わせ先
修理内容について…公園緑地課 (☎ 33-8739)
重要文化財について…文化財課 (☎ 82-1642)

弘前城ってどんなお城?

弘前城は今から400年ほど前の慶長16(1611)年に、弘前藩2代目のお殿様・津軽信枚によって造られました。

以降、明治時代になるまで弘前城は一貫して弘前藩主・津軽氏の居城として、また、弘前藩の政治を行う「藩庁」として使われました。



つがるのぶから
津軽 信枚
(1586-1631)
「藩庁」は今でいう市役所のこと。

明治4(1871)年7月、明治政府は「藩」を無くし新たに「県」にする「廃藩置県」を実施。

その時のお殿様だった12代目・承昭(つぐあき)は東京に移り、弘前城はお殿様の家と役所としての役目を終えました。



▲明治時代初期の弘前城天守

以後は軍隊が使用していましたが、天守・櫓(やぐら)・城門といった建物は壊されずに残りました。

明治28(1895)年5月、弘前市は陸軍省から土地を借り上げ城跡を「弘前公園」として一般開放。

誰でも弘前城跡に入れるようになりました。



これが「弘前公園のはじまり」!

その後、城跡に残る天守・櫓・城門といった江戸時代に建てられた建物の多くは、昭和12(1937)年に「国宝(※)」に指定。

昭和27(1952)年には遺跡としての価値が認められ、城跡全体が国の史跡に指定されました。

(※) …当時の国宝保存法に基づくもの。現行の文化財保護法における「重要文化財」に相当します。

弘前城は城郭建築として東北唯一の重要文化財

弘前城跡では
・天守 1棟
・城門 5棟
・櫓 3棟 の合計9棟の建物が重要文化財に指定されています。



天守



追手門



南内門



東内門



東門



北門(亀甲門)



辰巳櫓



未申櫓



丑寅櫓

櫓と城門は江戸時代初期の慶長16(1611)年、天守は江戸時代後期の文化7(1810)年の建物です。

櫓と城門は約400年前の築城時に建てられたんだね



江戸時代に建てられた天守が今も残るお城「現存12天守」として有名な弘前城ですが、

弘前城パネェ!

江戸時代に建てられた城郭建築が残っていてさらに重要文化財になっているのは東北では弘前城だけなんですよ!



はみだし読み物 其の壱

重要文化財って何?

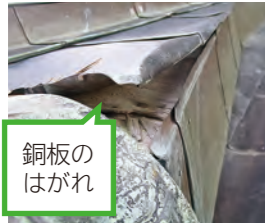
昭和25(1950)年に制定された「文化財保護法」に基づき、文化的・学術的な価値が高い文化財として国が指定するものを「重要文化財」といいます。ちなみに重要文化財の中でも、特に価値の高いものが「国宝」です。

弘前市内には、令和4年10月13日現在で「重要文化財」指定の建造物が45棟3基あります。

弘前城跡の城門の修理、どんなことするの？

前回の大きな修理は昭和30年代～40年代のこと。

それ以降に傷みが出てきた部分を修理していきます。



▲南内門の2階屋根

棟材の端を飾る鬼板が脱落



鬼板



屋根軒先の銅板が欠損

▲追手門の2階屋根

そして、もう一つの大切な目的が…

耐震補強

近年、全国的に地震で多くの文化財が被災しています。

備えは大事！

弘前城跡も現在の耐震基準を満たすよう補強していきます。

そのスタートとして令和3年度に着手した追手門・南内門の修理が今年度完了しました！

他の7棟も順次修理していきます

まだまだ続くよ



修理工事中は、皆さんが見学できるよう、実物の部材や工事の写真を展示し、修理工事の状態を『見える化』しました。工事用の仮設足場を実物大の城門写真のシートで覆うなど、景観にも配慮しています。



▲工事中の追手門通路。透明パネルで修理状況を見学できる。

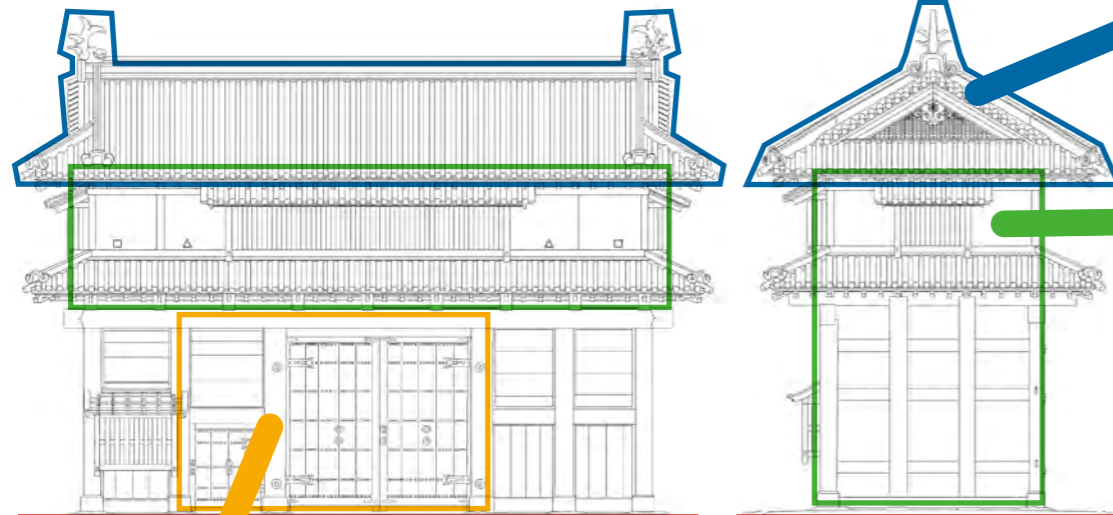


▲工事中の追手門と南内門の外観

追手門と南内門の修理

正面

側面



門扉

門扉の金具のさびを落とした後、さび止めの漆を塗って仕上げました。漆は仕上げも含めて4回重ね塗りしました。



屋根・鯨

2層ある屋根のうち、2階屋根の銅板の葺き替えを行いました。屋根に取り付いている鯨も一度取り外して修理しました。



壁

土壁の凹みを白漆喰(しっくい)で埋めて平らにした後、さらに全体を白漆喰で上塗りしました。



耐震補強

建物を安定させるため、地下に重りを埋めました。また、2階内部と1階内壁に建物内の柱を補強するための「筋違い」を追加して耐震補強をしました。

はみだし読み物 其の式

文化財修理の考え方

文化財に指定された建物は、先人たちの技術や材料への考え方を現在に伝えてくれる、最良の教材といえます。ですから、修理する時は、建てられた時の形や構造をできるだけ残す必要があります。弘前城の城門には「江戸時代の城郭建築」としての価値があり、築城から現代まで修理を重ね、私たちがみている今の姿になっているのです。そのため、今回の修理では、比較的良好な状態を保っていた1階屋根や柱・扉板などの部材は交換せず、このまま維持することにしました。

城門の屋根のヒミツ

城門の屋根、焼き物のように見えますが実は木製屋根に銅の板を被せた「銅瓦葺」で造られています。

こうなった背景には雪国ならではの悩みがありました。それは…

江戸時代の雪だるま

雪の影響で割れる



築城当時には焼き物の瓦が葺(ふ)かれていたとされますが、焼き物の瓦は雪で破損しやすく、ひと冬ごとに大規模な屋根修繕が必要でした。

「弘前藩庁日記」には、宝暦4(1754)年に城内の建物の屋根を銅瓦葺に順次更新する方針を決めたと記されています。



市立図書館所蔵の古文書「弘前藩庁日記」

現在も屋根の一部や窓底には、江戸時代の銅瓦葺が残っています。



▲南内門窓底の銅瓦葺 (江戸時代中期のものと同定)



▲南内門2階屋根の南面に残る銅瓦葺 (江戸時代後期のものと推定)

青みがかって見えるのは緑青の色だね

銅板の下はこのような木でできています



屋根の色にひと手間

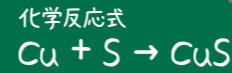
2階屋根の葺き替え作業では、穴があくなどして再利用できない銅板を新しいものに交換しました。

しかし、新しい銅板は光沢のある赤茶色をしており、そのまま使うと屋根の色がまだら模様になってしまいます。

そのため、新しい銅板をあらかじめ薬剤に浸し、化学反応で色を調整してから葺き直すことに。



硫黄と反応させて硫化銅の被膜で表面を覆いました



こうして違和感がない色合いの屋根に復旧することができました。

修理しなかった屋根の色合いとなじんでるね



▲南内門2階屋根東面(上段は銅板葺替後、下段は今回修理しなかった窓底)



▲南内門2階屋根の北西隅(右側手前側が交換した部分)

鯨(しゃち)の修理

追手門・南内門の鯨は屋根と同じく、木彫りの彫刻に銅板を巻き付けて作られています。

南内門の鯨は2つとも良好な状態



GOOD!

銅板をいったんはがして木彫りを部分的に直し、再び銅板を巻いて戻しました

追手門では東側の鯨の腐食が著しく修理不可能だったため、新たに木彫りから作り直しました。

OH...



▲追手門・東側の鯨 木彫りの腐食状況

古い鯨と同じく杉材を使って同じ大きさ・形に彫り出したよ



▲杉材に描かれた下絵

古い鯨の木彫り



新しい鯨の木彫り



城門の2階には何がある?

2階には物見があります。戦が起こった時に遠くから敵の動きを監視したり、高いところから敵を攻撃したりするためのスペースでした。

弘前城の門のように、門の上に部屋がある形態を櫓門形式といいます



追手門や南内門の2階の壁には、「狭間」と呼ばれる四角形や三角形の穴が複数設けられています。

この穴から鉄砲で敵を攻撃!

物見の内部はこうなっています

追手門2階物見内部

耐震補強用の筋違いが追加されました!



修理前



修理後

はみだし読み物 其の参

鯨って何?



お城やお寺の建物の屋根にのっている鯨。「しゃちほこ」とも呼ばれていますね。虎の頭に魚の体という想像上の海獣です。

鯨がなぜ屋根の上にいるのか、知っていますか?

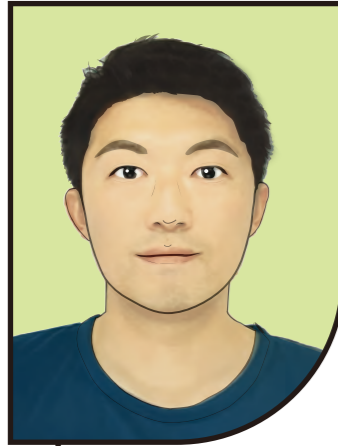
実は、火除けのまじないなのです。昔の人は、火事になった際に鯨が口から水を出し、火を消してくれると信じていたそうです。

ちなみに 関係ないよ

海にいる「シャチ」とは別の生き物です



現場のプロフェッショナルにインタビュー！



追手門の修復を担当

株式会社
堀江組
建築課主任
工藤 亨さん

建築工事の現場管理として、重要文化財である旧弘前偕行社の保存修理工事や、倉庫・事務所などの新築工事に携わった経験を持つ工藤さん。追手門の修理工事を担当し、工程管理・現況調査・実測・施工図作成などの現場管理にあたりました。

南内門の修復を担当

株式会社
マルノ建築設計
建築第1工務部
課長補佐

小田桐 健太さん

住宅、公共施設、福祉施設など、さまざまな建築物工事の施工管理（現場監督）の仕事をしている小田桐さん。南内門の修理工事を担当し、2階屋根の銅板の葺き替え、外壁・内壁の白漆喰塗り直し、耐震補強などに携わりました。



修復工事で大変だったことを教えてください。



現場に合わせた施工図の作成です。既存の木材にねじれが生じていたので、現状を実測して、すべて反映させた図面の製作がとても大変でした。



屋根の銅板の色合せです。既存の銅板色に近づけるために、納得のいく仕上がりになるまで職人達と試行錯誤を重ねました。

文化財の修復は、普通の建物の工事とはまた違った苦労があるんですね。



苦労もありましたが、足場を解体していた時、市民の方に「ご苦労様でした」と声をかけてもらったことがあり、その時は頑張ったかいがあったなと思いました。



それぞれの工程でさまざまな人の手が加わっているので、完成した時は感慨深いものがありました。日本の伝統的な技法に触れることで、自らの学びにもつながりました。

もっと知りたい人は
WEB サイトもチェック！

弘前城重要文化財保存修理事業
特設ページ

弘前城
重要文化財
保存修理事業



読み応えたっぷり！
動画でも修理の様子をじっくり見られます



弘前城跡の文化財
修理情報
『弘前城かわら版』



弘前城本丸
石垣修理事業
特設ページ



今回の修理工事をあらためて振り返ってみて、どんな思いがありますか？



学生時代に通学で通って慣れ親しんだ追手門と改めて向き合ってみて、その歴史や工法などを含め、身近にこんな立派な建物があつたんだと改めて認識しました。その歴史にわずかながら関わることができ、誇らしく思います。今回、修理工事の状況がわかりやすく伝わるよう、写真や実物の展示をしました。今まで屋根の上の鯨や鬼板の存在に気付かなかったという人もいたので、皆さんに新たな視点で追手門を見てもらうきっかけになったと思います。



普段何気なく目にしていた南内門が築400年以上経った今も残っていることに、改めて歴史の深さを感じました。代々継承されてきた修理に携わることができて、嬉しく思っています。私にとって、弘前城は子どもの頃からまちのシンボルとして身近に感じてきた存在です。大人になり、縁あって文化財の修理に携わる機会を経て、今後の世代へと大切に残していきたい、今後も携わっていきたく考えるようになりました。

最後に、市民の皆さんにメッセージをどうぞ！

文化財の建物は、一度修理を行うと次回の修理は約50年～60年後になります

今回の修理を通して、市民の皆さんに文化財の保存に興味を持ってもらい、追手門を含めた弘前の文化財をこれからも大事にしてもらえたら幸いです

きれいに生まれ変わった屋根や、塗り直された漆喰の壁をぜひご覧ください！

屋根の銅板の色が、年数を追うごとにどんな変化を見せるのかも見所です

この機会に天守だけでなく城門にも目を向けてもらえたら嬉しいです



重要文化財の修理が見られるのは、実はとっても幸運なこと。

追手門では、これまでごく小規模な修理も含めて平成までに15回、南内門では5回、修理の記録があります。一方で、今回の修理のように長期間を要する大規模修理は少なく、追手門・南内門ともに、前回の大規模修理から約60年の歳月が経過しています。現在弘前城跡で進んでいる「令和の修理」は、先人の工夫や技術に触れることのできる貴重な場となります。ぜひ弘前城跡に足を運んで、あなたも歴史の証人になってみませんか。

